



エムボ！
4



「さすがは（フライリノア魔法学校）で天才と呼ばれた方ですね♪
一人でこれほどの難度と数の依頼をこの短期間でやり遂げて
しまうなんて！では、こちらが報酬となります！」

「そう。ありがとう。」

私は余計な言葉を返さずにギルド職員から報酬をもらって
早々と立ち去る。



正直、天才と言われ続けても実感がない。

だから否定しようとした時期もあったが時間を使った挙句に
余計周りから反感を買うことになったので今では素直を礼を
言っ流すようにしている。

それでも絡んでくる奴はしつこく絡んでくる。

「さっすが天才様。
まさにバカと紙一重だな！
単独でダンジョン入るとか優秀な
くせにアホ過ぎるだろ。」

「……………」

「余裕ぶっ」いっていると痛い目見るぞ？
まあ、あたしの知ったことじゃない
けどなあ。てか、聞いてんのか。
今重要な話してっぞ？」



この子も飽きないものね。
初めは完全に嫌味だったけど最近
は嫌味なのか心配しているのか態
度が意味不明。

一理あるのは認めるけど私の場合
守る対象が増えるだけだから単独
の方がいいし。
パーティー加入の勧誘は断ったはずの
にこの子もそのリーダーも何故今だ
に絡んでくるのか。




「ナツシエ。心配してるなら素直にそう言えば？
今までの行動を見てきてミザリイが正統な冒険者なのは
理解しているでしょ。今じゃ勧誘にも乗り気満々なくせに。」

床に着きそうなほどの巨大な乳房を持つ戦士が間に入ってくる。
彼女がうざナツシエのリーダー「アルマ」。

・やっぱりまだ勧誘諦めてなかったか。

アルマの言葉にナツシエが何か言い訳がましく言っているが無視する。



膨大な魔力量が原因で起きる、著しく乳房が巨大に成長する魔膨症。
魔力量が多いほどに超乳度は増すため、乳房の大きさは相手の脅威度
を知る目安ともなる。魔力放出量が激減するデメリットがあるが、あ
まりに大き過ぎて普段は縮小化の魔法を使っている者もいるのであく
までも最低目安だ。かくいう私もその一人。



「…それでは先を急ぐので失礼します。」

どうせまた勧誘の話だと思った私は即座に出口へと向かう。

「待つてミザリイ。」

今回は正式な協力の依頼よ。

私たちのパーティーへの協力という仕事を

をあなたにお願いしたいの。

もちろん成果に関わらず報酬は出すわ。

どうかしら。」



正直、気は進まないけれど仕事というなら断る理由はない。

「…依頼という一時的な形なら別に構いません。

二度手間になりますから、依頼申請には私も同行しましょう。」

こうして初めて私はパーティーでダンジョンへと入ることとなった。

ダンジョンとは危険と認定された古代人の生活施設のことである。凄まじく強大な存在とされている古代人。時として発見される彼らの施設・道具は現代では解析不可能である。

古代人にとっては自動で補充されるただの警備用ペット、自動で増えるただの家畜が現代人から見ると命に関わる凶悪なモンスターとなる。だが、無限の狩場でもあるそこは素材の宝庫だ。

TORINIKU!

BANKEN!

BUTANIKU!

しかもダンジョン内モンスターは制御を受けており外へ出てくることはないため、ダンジョンを中心とした街、「ダンジョン都市」は各地に多く存在する。

一般人がダンジョンに入るには冒険者として登録する必要がある実績を積みランクを上げていけば行けるダンジョンも増えていく。モンスターを狩り素材を集めるのが主な仕事だが古代道具を発見することができれば一攫千金も夢ではない。

基本、魔力量と強さは比例するため、上級冒険者の女性割合を多く、冒険者だけに限らず強者と呼ばれる者は全て女性だ。そんな女性冒険者の中には金銭のためだけでなく性欲発散も目的とする者がいる。「モンチン堕ち」と言われる彼女らは女性強者特有の豊満過ぎる体を持って余し超巨根魅せつけてくるモンスターを二つの意味でやりまくる。



ダンジョンを構築した古代人も恐らくは女性。目の保養か、性欲処理か、どうせだから巨根雄にしたのか。どれにしるダンジョンには強制勃起状態の巨根モンスターが数多くいる事実は変わらない。

「超乳なこの体」と持ち上がるオーガチンポお素敵い♪
ああああああんっ！でもお足りない！足りないのお！
あああああああっ！もっともっとお滾らせてええっ！」

ペニスに串刺しになったまま自身の超乳を揺らして
強引に動くモンチン堕ち魔法使い。

「ああああああんっっ！
ひいああああああんっ！」

「グウギイゴオオツツ！」

「そうそう。射禁状態でイキまくりなさ〜い♪
頑張った」褒美にはハイパーオーガチンポにしてあげるからあ。」



「あああああつっ！ イックウウゝゝゝッッ！
んんんっっ！ ダメエゝゝゝ。 こんな軽い絶頂じゃ足りないのおっ！
ほらあ早くう。 イキ過ぎて干渉抵抗ゼロになってハイパーチンポに
なっちやてえ！ ああああああんっっ！」

射禁ベルトで締め上げられた。ペニスは精液を全く出せないまま
何度も達せられ、オーガは苦悶しながらもがく。

「そろそろイけそうねえ。
それじゃいっちやうわよおゝゝ。
〈部位肥大〉っ♪」



「あああああああああああああつっ♪
超デカチンポきひやあああああつっ♪」

他者へ直接変化を与える魔法を使用する場合、干渉抵抗が発生する。回復魔法は自分自身にかけるよりも効果は半分に減衰。強化魔法は四割の効果が出ればまだ良い方。変化魔法にいたっては不発する。

だが、例外は存在する。現在判明しているのは三つ。相手が瀕死の場合と連続で絶頂させまくった場合。射禁状態で絶頂させまくってからの強制超巨根化はまさにモンチン堕ちの定番プレイ。坂道を転がるようにモンスターたちはどんどん意識と抵抗を削り取られや(犯)られながらや(殺)られていく。




「溜め込み大量精液いきひゃあああああああつ！
ああああああああんっ！イックウウツ……！！
あああんっ！イクイクイクツ……！！
中出しいのおっ！もっもっもおっ！」

「それじゃトドメの《コンバート》…
生命力を精力へ変換♪
文字通り死ぬまで出し尽くす
とっいわっ♪」





「あああああああああつ♪
超デカチンからの超継続超大量射精っ！
しゅてきいいひいっ！
イクイクイクイクイクイクイクイクイクイクイクウツッ！
あああんっっ！イクイクイクイクイクイクイクイクイク！」



オーガの生命力を精力に変換し続ける。
死ぬまで持続する膨大精力が連続大量射精を実現する。絶頂しまくっていたペニスからの放出は自力では止めようがない。

射精は二分ほど続き、ついにオーガは事切れる。

モンチン堕ちの魔法使いは支えを失い精液溜まりに落ち何度か痙攣し余韻を楽しむがすぐさま欲求不満な表情を浮かべる。

「あああああんっ。もお終わっちゃったあ…。」

「言っとくけど次は私の番だからね！」

アルマ達のパーティは純粹な狩りを目的として活動している。だが、突然回復と遠距離魔法担当がやり目的でパーティから離脱。その穴埋めのために私を勧誘してきたようだ。

「それなりに一緒にやってきたつてのにチンポ目当てに急に他のパーティに移籍しやがって。これだからおっぱいのドデカイ奴は油断ならねえな。」

胸が大きいほどモンチン堕ちになりやすいのは通説。ナツシエの今までの私への行動はそのせいのような。魔法学校出の天才という噂だけでも相当な大きさと判断するには充分だろう。

私は性欲が薄めなのでナツシエの態度が軟化していったらしい。へそ曲がりなので腕うんぬんの前にとにかく面倒くさい。



剣士「ナツシエ」

冒険者クラスC

通常時バスト縮小なし
最大バストサイズ 223cm



盗賊「シャロン」

冒険者クラスC

通常時バスト縮小なし
最大バストサイズ 148cm

「さ、先ほどはありがとうございましたあ。足を引っ張らないように、頑張りますうー！」

先行する役割なのにドジを踏んですでに何度か助け船を出している。正直呆れてきていたが、危険察知とマッピング能力はかなり優秀なので、しっかりとサポートすれば結果いい働きを見せてくれることに……。何か複雑な気分。

「さすがはミザリィね。

二人の穴を埋めてなお余りあるわ。

おかげで今回は普段より深い層まで行けそうね。」

妙に馴れ馴れしいのが気にかかるが見た通りに
魔力も高く優秀な戦士。

縮小の魔法は苦手らしく調整がきかずペツタンヨ
にしか縮小できないため、常時フルサイズなのは
ちよつと邪魔。

自己回復、身体強化くらいしかまとも扱えないと
のことだがこの魔力量なら充分に有効な手札とな
りえるはずだ。

戦士「アルマ」

冒険者クラスB

通常時バスト縮小なし

最大バストサイズ 574cm



「ちっ。どいつもどいつもチンポおったてやがって目障りにもほどがあるっての!」

「た、確かに落ち着かないというか。攻撃の瞬間、こちらに向けられるとつい軌道を逸らしてしまいますう。」

二人はなぜか不快不満を漏らす。むしろ歓迎してもいいことと思うのだけれど。

「こんな急所丸出し。狙いやすさ抜群かと。この程度なら急所一撃で完了です。」


「ビギヤアアアオオオオオツツツツ！」

「急所への強烈な一撃。しかも
防御力の低い内側から。
確かに理に適ってはいるわね……。」

「……急所狙いは私も考えたことあった
けどな。どーにも実践する気にはな
れなかったんだよ……。ヤベエ。
あいつ、一切の躊躇なし！」

「ひい。
み、見てるだけでも痛いですう。
しかもそのまま破裂コースっぽい
ですうっつ？」





「自分から馬鹿丸出して急所丸出しにしてるくせに何悶絶してるのかしら。しかも急所攻撃されているのにイってるとか。とんだ変態。ほらあ、その変態をどうにかしないと自分の体液で爆砕しちゃうわよ？」

モンスターが出す体液も操り、急所の生殖器を内部から膨れ上がらせていく。体液を利用するため物質生成の魔力を省けて効率もいい。

：おつといけない。
バカなモンスターが自爆するのを見てると
つつい笑えてくるんですよね。

さすがにこれははしたないのは分かる。
次からは気をつけるとしましょう。



「安心して下さい。
生殖器が素材になるモンスターにはしませんので。」

このあとも探索は順調に進み、順調に爆砕していく。
笑ってしまったのは最初だけだったのに爆砕するたびに三人が遠い目
をしていたのは謎。急所を狙うのは当然の戦略だと思っただが……

そして、依頼に似合うだけの成果を出し初のパーティダンジョン探索
を終えた。

多少のおせっかいと実利、アルマたちはそれ以降も何度か同行を依頼してきた。成果が分からないのに助っ人依頼を出すのはそれだけでマインナスになりかねない。それは十分な信用の担保。

仕事はきっちりこなす。

当然のことを繰り返していたら次第に他のパーティーからも助っ人依頼がくるようになった。基本はソロで、依頼されたときのみパーティーというのが私のスタイルとなっていた。

相変わらずソロの方が性に合っているが、私が完全サポートすることで他者の尖った能力を活かして大きな成果を出させるのも悪くはないとも思っている。

私は普通にやっただけなのだが、それらを普通にやるのは普通じゃないらしい。でも、私はただ可能だからやる。それだけだ。





ある時いくつかのパーティが帰還していないという話を耳にする。
だが、心配も動揺も広がっていない。

正直よくある話なのだ。

モンチン堕ちで構成されたパーティがたがが外れてダンジョン内で数日
やりまくってしまいしばらく帰還しないことは。

搜索依頼を受けて向かった先には搾りカスのようになった多数のモンス
ターと精液の海。そして、満足そうなモンチン堕ち達が時間の経過に驚
く。それが定番のオチになるくらいによくある話。

『あああああんっ!!
もっとおもっと頑張つてえ…!!
これじゃ全然足りないよおっ…!!
魔力残量気にせず強化できたらいいのこい。』

「モンスターのくせにこの程度
でへばってるんじゃないわよ!
おらあーほらあっ…!

しっかり硬くしなさいっ…!

ゴボ

「やっぱり物足りないっ…!!
ってこゝとで「インバート」おおお
おおおおっ…!
大量精液来た来たああああ
あああああんっ♪」

モンチン堕ちたちが皆ぶつかる問題。

モンスターを魔改造しまくった状態で存分に楽しみたいところだが
毎度そんな大盤振る舞いしていたら魔力がすぐに枯渇してしまう。
manaポーションは高価なので気軽には使えない。

そういう事情から安全軽視な無茶なやり方をする者も出てくる。

闘(やり)りながら犯(や)って殺(や)る。
相手のセイシを考慮する必要がないモンスター相手だから
こそその加減無用のバトルセックス。



「ああああんっ！
谷間に熱いのが溢れてますわあっ♪」

動きの枷となる超乳は圧倒的物量攻撃にもなる。
「ぶちちかまし」。強化した下半身で跳躍しおっぱいごとぶち当たる。

無様にも急所丸出しモンスターは衝撃で射精する。
射精に意識を取られモンスターはそのままあっけなく超乳に押し倒される。



「チンポも膝もいい位置ですわね！
あああんっ♪ 太おおおおいっ♪」

彼女は腰を下ろす。

過剰強化と巨大なものを啜え込み続けた拡張成果で
体外へ飛び出るほど異様なまでに肥大している子宮が
折り曲げた両膝とペニスを同時に呑み込んでいく。

グ

ホ
オ

自在とは程遠いがある程度は子宮を操作できる彼女は
モンスターの下半身を子宮で吸い上げながら、子宮は
体内へと戻していく。

モンスターの足のつけ根辺りまで呑み込む。
モンスターごと戻される子宮で彼女のお腹はだんだん
と膨らんでいく。

「あああああんっっ！
やはりハメるならこれくらい大きくなくてはっ！」

ペニスの巨大化をしてもどうせ物足りないので省エネを兼ねた「ペニスを
下半身丸ごと挿入」。無論リスクも高いがそれすらも刺激。





モンスターの反撃を許すはずもなく彼女は子宮を一気に体内に引き戻す。モンスターは腰まで呑み込まれ、腹部を凶悪に締め付けられて悶絶する。その隙にしっかりと両足でモンスターの両手を封じる。

「ああああんっ！子宮熱いいんっ！
こんな状態でもう3回目の射精ですわあ。
モンスターってDMしかいませんの？
けれど悦んでいる場合ではありませんのよ。
しっかり抵抗しないと死にますわよ。
ほらほらほらほらっらあっ！」



縦横に腰をくねらせて快感を引き出す。
モンスターの方がまるで生きたデイルドー扱いで
時折その体から嫌な音が鳴っていく。

「あああああああんんっ！
気持ひいいいっんんっ！
ああああんっ！ああああああっ！
ほらあもっとお暴れてえっ！
あああああああああっ！」

「おほおっ！また精液来まひたあ♪
あああああああああああっ！
イクイクイクイクイクウツ…！」



「……あらあ？」

動きが完全に止まりましたわね。」

大量射精させる処置はしていないのにお腹が数段膨れ上がるほどに中出し精液が溜まっている。十数分のハメ技をくらい続けたモンスターは抜け出すこともできず死ぬほど射精し事切れた。



格闘家「クラウディア」


冒険者クラスA

通常時バスト 300cm

探索時バストサイズ 650cm

最大バストサイズ 未確認(成長中により要再確認)

探索(強化肥大)時ヒップサイズ 178cm



元は良家のお嬢様だったが魔膨症による欲求不満が年々ひどくなり、ついに冒険者となってモンスター相手に性欲発散し続ける日々を送る。

本人はただやりまくっていただけだが、いまだ成長するおっぱいが物語る天性の超大な魔力量と幼い頃に習得した武術で冒険者としてもモンチン墮ちとしても有名に。現在、ヤリ手のヤリマンギルドのリーダーとして活躍中。




「あらあまたまたモンスター発見ですわあ。
ちようどりポップタイミングに当たったのかしら。
ふふっ。正に入れ食いですわあっ!」

先ほどと同様に捕食するかのようにモンスターたちを
喰い散らかしていく。同じモンチン墮ちでも唾然とする
ような喰いつぶり。

だからこそその姿に催淫され憧れる。
我が道をイっているだけのクラウディアのもとに人(変態)
が集まるのは自然なことだ。

「あああんっ! 勢い余って全身バキバキにしまいましたわ。
踊り食いができませんわねえ...! ならあ...んんんっ!
あああああんっっ! いいですわあああああっっ!」




性処理道具として使い倒されていくモンスターたち。
モンスターと呼ばれている存在からすればクラウディアたちの方が
よほどモンスターだろう。

何かから逃れるようにやってきて集ってしまった彼らが行きついた先
もまた死地であった。

「…いつももですが、今日は特に凄まじいですね…！
やっぱり私たちだけ別行動で正解ね。
新人にはいきなり生クラウディアは刺激が強いもの。
影響されて無茶するようになっては困るからね。

うわあ。モンスター丸ごといったあ…！」



格闘家「エレノーラ」

冒険者クラスB

通常時バスト 400cm

最大バストサイズ 673cm

探索(強化肥大+巨大化)時ヒップサイズ 420cm

クラウディアとは初期からの冒険仲間。
アナル好きのため探索時はよく超尻化している。

格が違う愛すべき超ド変態のクラウディアの手綱
役を自負しているが本人も大概にド変態。



エレノールはクラウディアのバトルセックスをオカズに自身のプレイも激しくしていく。

きっちりと手足を不能して転がしていたモンスター級のペニスを次から次へと超尻で啜え上げては尻の質量と弾力で搾り尽くし、また転がしていく。そのスパンがどんどん早くなっていく。

「ああああんっ!!
お尻でイクイクイクイクウウツ…!!
ああああああああんっ!!」

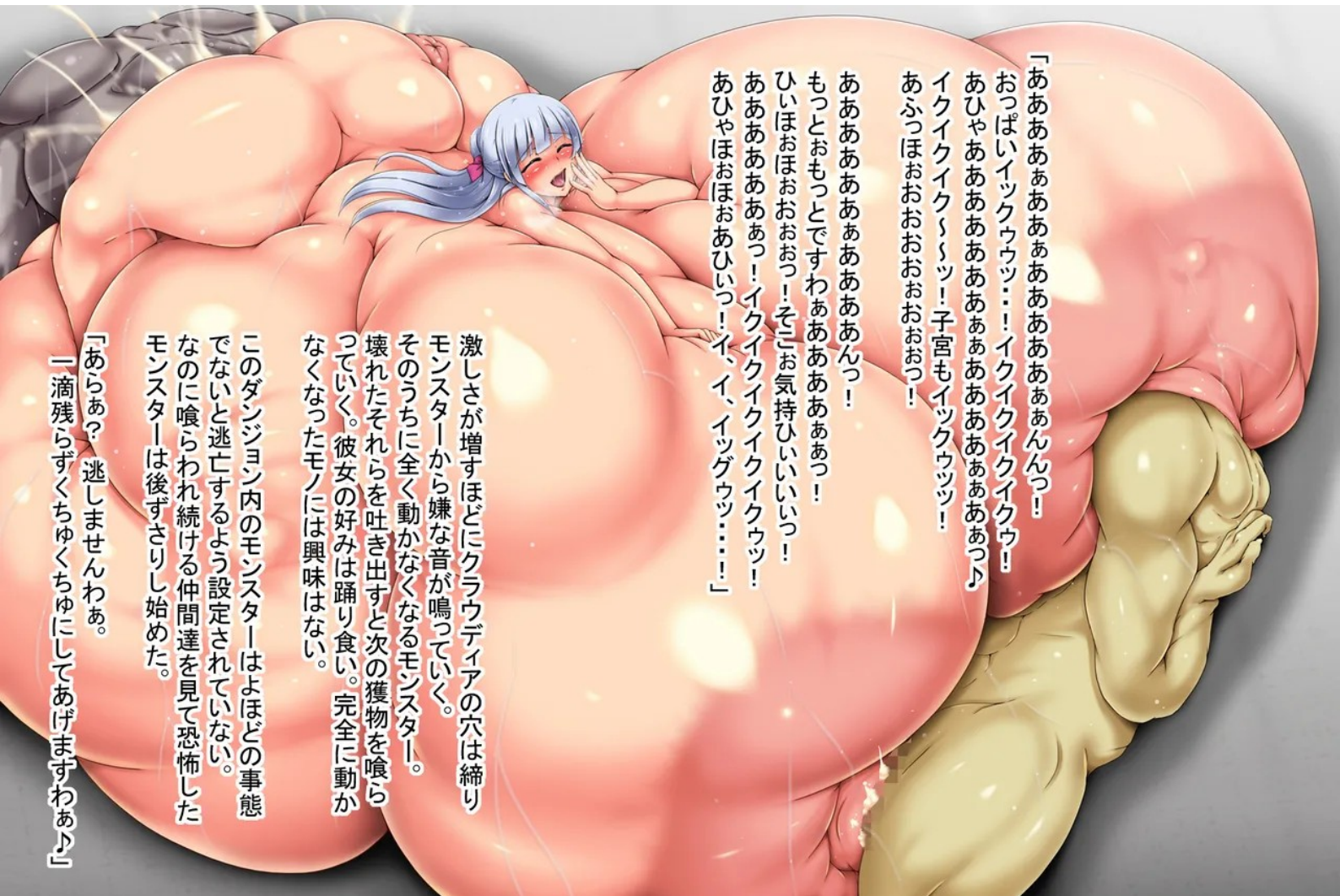
「もおクラウディアってばやり過ぎい…!!
ああああああああんっ!!
ホント新人には見せられないわね…!!」

やればやるほど更なる刺激が欲しくなっていく。ド変態は止まらない。加減の無いぶちかまして戦闘不能にしたモンスターとペニスを乳首で咥え込み、緩やかな窒息でもがくのをバイブとしてニブルファックを楽しむ。

クラウディアの腹は異様なまでに膨れ上がっている。それも当然。モンスター一匹を子宮に丸呑みしたままさらに下半身ごとペニスを咥えこんでいる。

「ああああああんっ!!
大きい来ますのおほおおっ
あああああっっあああっ!!」





「ああああああああああああああんっ!!

おっばいイックウウツ!!イックイックイックウ!

あひゃあああああああああああああああッ♪

イックイックウウッ!!子宮もイックウウツ!!

あふっほおおおおおおおおッ!!

ああああああああああんっ!!

もっとおもっですわあああああああッ!!

ひいほおほおおおッ!!そこお気持ひいいいッ!!

ああああああッ!!イックイックイックイックウッ!

あひゃほおほおあひいッ!!イ、イ、イッグウツ!!」

激しさが増すほどにクラウディアの穴は締り
モンスターから嫌な音が鳴っていく。

そのうちに全く動かなくなるモンスター。

壊れたそれを吐き出すと次の獲物を喰ら

つていく。彼女の好みは踊り食い。完全に動か

なくなったモノには興味はない。

「このダンジョン内のモンスターはよほどの事態
でないと逃亡するよう設定されていない。

なのに喰らわれ続ける仲間達を見て恐怖した

モンスターは後ずさりし始めた。

「あらあ? 逃しませんわあ。

「一滴残らずくちゅくちゅにしてあげますわあッ」

クラウディアがモンスターたちをとりあえず戦闘不能
にしておこうとした時だった。
緊急用の音玉がダンジョン内で反響した。

その音玉は彼女のパーティのもの。
少し離れたところで別行動していたメンバーからの緊急
の信号だった。ただやりたいようにしてきたクラウディア
であったが自分を慕って集まった者たちを見捨ててやり続
けるほど淫乱外道ではなかった。

啜え込んでいたものを一気に吐き噴き出す。

「エレノーラ！
もちろんイけますわね？」



モンチン堕ちが一番危険になるのは性交中だが、調子に乗ってやり過ぎて性交後にまともにも動けなくなりそこを襲われて全滅しかけるのもよくあること。

だが、クラウディアは並の変態ではない。あれだけの激しい性交の直後でも平然と動ける。高魔力保持者ゆえの頑強さと絶倫が為せる技。

彼女と比べると霞むがエレノーラも充分な変態。まだまだやれる余力を残している。

「ええ！ 当然！
急ぎましょう…！」

エレノーラは即答する。
クラウディアに中てられてちよつとトバし過ぎて下半身がひくついているが問題はない。

うかつに魔力放出を落とすわけにはいかない。
二人は超乳を揺らしながら現場へと急行する。






二人が駆けつけたさきでは巨体がうねっていた。
このダンジョンには出現しないはずの女型の半人半蛇のモンスター。

人間同様、モンスターも同類ならば女型の方が強い。
今回はその超大な乳房を見れば一目瞭然であった。

モンスターは普通に外界にも存在する。
ダンジョン内に紛れ込んだ外来種が無限に湧くモンスターを餌にして
強みに特殊に成長・進化する。それらはボスモンスターと呼ばれ、ラン
ダム遭遇する。強さはピンキリで厄介この上ないが希少な素材になる
こともあり遭遇したのなら闘ってみる価値はある。

だが、本当に強さはピンキリで、中には深層で長い間力を蓄え凶悪な
強さとなったモノもいる。極めて危険と判断されればそれらが外へと
出る前に国が保有する戦力が討伐に出てくる場合もあり、ボスに戦い
を挑むならば見極めが重要となる。



「マダマダ 空腹 オマエラモ 丸呑み」

半人半獣系には言語を使うモノもいる。
丸呑みという単語にクラウディアはおっぱい形に変形している
蛇の胴体に気づく。パーティメンバーはこれに丸呑みにされた
に違いない。

だが、丸呑み。そして、まだおっぱいは形を保っている。
つまり、消化は全然進んでおらず、外傷軽微の可能性大。
【1】でこの半人を消し飛ばせば救えるかもしれない。

「オールリリース！」



クラウディアのおっぱいが制限を
解かれ本来のサイズを取り戻す。



13m級超乳への圧倒的变化に誰もが視線を奪われるだろう。
驚異度が超乳度に比例する世界だからこそ自然と注視して
しまう。

「全身強化！」



この超乳で普段通りに動き回るには強化は必須。だが、闇雲にすればいいものではなく強化による肥大を考慮し可能な限り抑制しなければならぬ。

それは女性強者のジレンマ、放出量を上げる(元に戻す)ほどに超乳になるため動きづらくなり、それを補助するために強化を強めれば全身が肥大して枷が増す。

そういったことで高魔力保持者は遠距離魔法を主軸にすることが多いが、クラウディアはバトルセックスするために格闘スタイルを貫いてきた。結果培われてきた身体強化系魔法練度とその大質量を利用した格闘術、そして、魔装技術。

魔力は「魔法」の燃料になるだけではなく、それそのものを一時的に体を守る薄い膜のように放出できる。それが魔装と呼ばれるものである。

ほとんどの人が無意識にやっていることで、怪我しそうなときその部位から自然と魔力放出を強め軽減しようとする。自然に出来ることで、体を武器として使う者以外には重要視されていない。

だが、この無意識の咄嗟の魔装こそが魔力量の差が強さの差となる要因。魔力放出量に差があり過ぎるとこれだけ攻撃を当てても通じないという事態が起こるのだ。



クラウディアへの警戒を逆手にエレノーラが死角へと回り込む。
最大バストを解放しての最大出力の下半身強化、からのヒップ
アタック。

悪ふざけでも何でもなく彼女の中で最大攻撃なのが
ヒップアタック。モンスターとの幾度とない性交で培
われた経験と技術が彼女のヒップアタックを必殺の
ものへと昇華させていた。





インパクトの瞬間、最大出力で発動される「巨大化」の魔法。使い込まれた魔法と尻があつてこそ可能となつた刹那の超膨張。

回避はほぼ不可能。
魔装も強く発現した10mの超尻がおっぱいの差を埋めるようにモンスターに炸裂する。



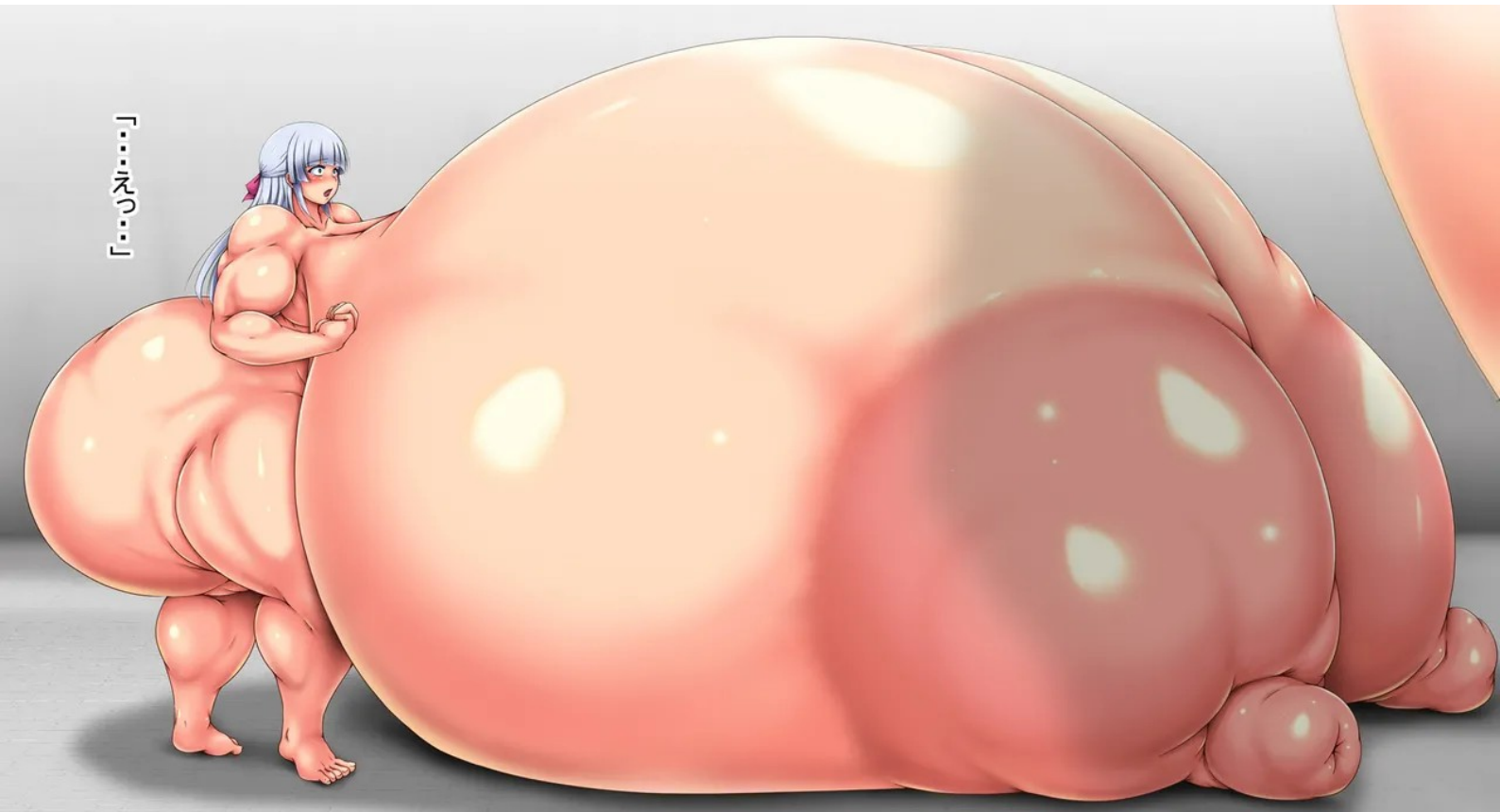
だが、それは突如現れた何かに阻まれる。
エレノールの超尻を難なく弾く質量と強靭さを
持った何かはさらに脈動する。



A large, pink, fleshy, bubbly creature with a small girl with purple hair lying on its back. The creature has several large, glowing yellow spots on its surface. The girl is looking up at the creature with a determined expression.

「オールウリイーリイースウー！」

エレノーラはその絶望的な言葉を聞く。
その瞬間、彼女は地面に押し落とされ
そのまま大質量に巻き込まれ引きず
られていく。







間拔けな声を出し啞然としたクラウディアが強烈な衝撃に耐えふれる視界を正常に戻せたころには全てが終わっていた。

壁際に追い込まれ脱出不可能の凶悪な大質量による圧殺攻撃。

「ニンゲンノ コノ技 ベンリト
デカスギ 移動デキナイノ コレデ解決。
モト戻スト オマエラ顔ウケルツト」

エレノーラは気絶し強化が解けている。クラウディアのおっぱいがなければモンスターおっぱいに押し潰されていただろうが、このままでは窒息する。

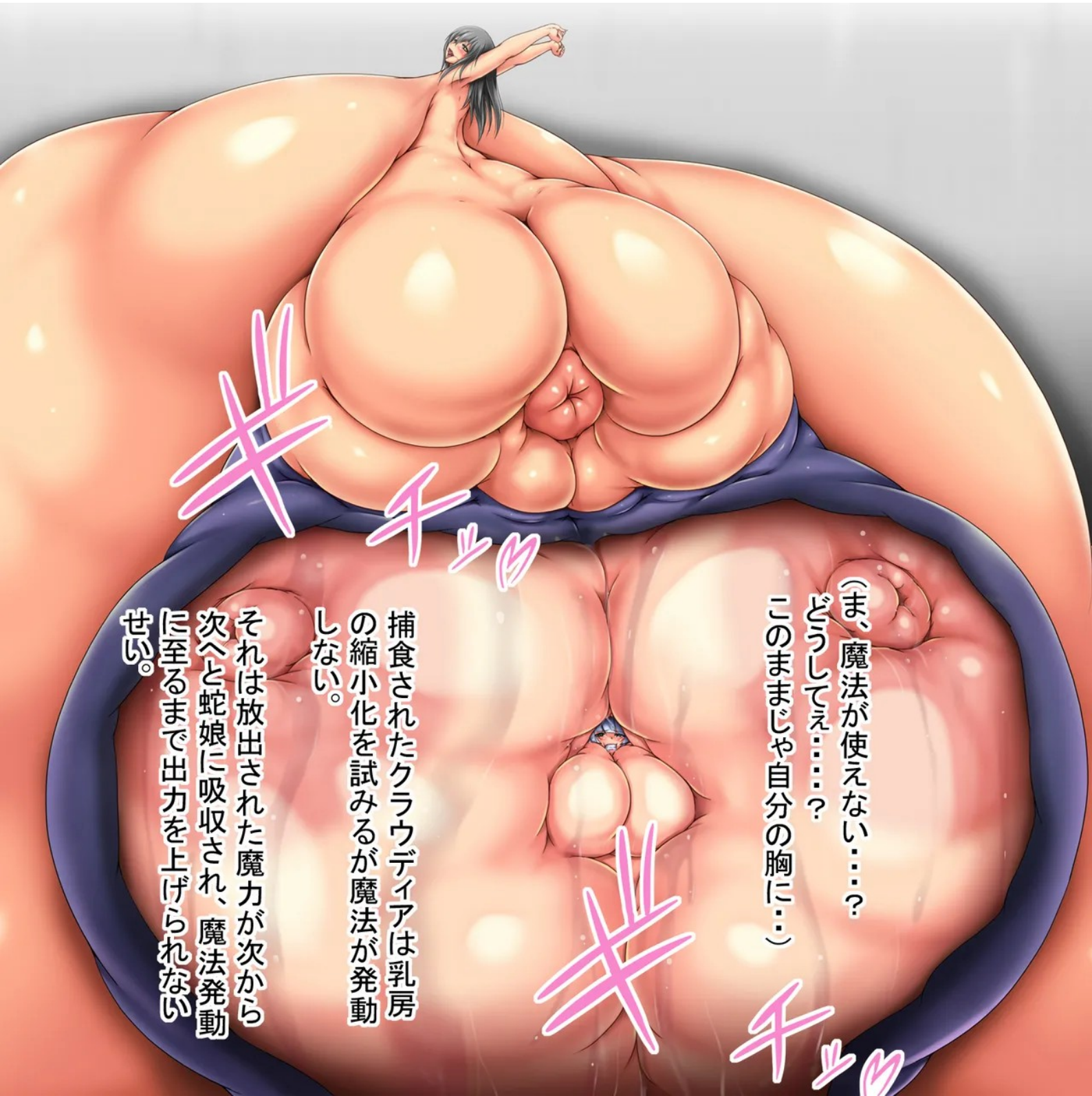
だが、クラウディアは魔力放出全開でモンスターおっぱいの圧殺に抵抗するだけで精一杯。このおっぱいの絶望的な差はどう足掻いても埋まることはない。

「オマエ今マデデ イチバン肉アツト
喰イゴタエ楽シミ イタダキマアース！」

「アアアンツッ！ シンツツッ！
コノ肉アツ イイ具合 引ツカカッテ
旨キモチイイ♪ アヒヤホオツ♪」

「デカパイ人間モ 悪クナイ♪
勝手ニヤツテクルカラ ドンドン喰エル！
アアアンツッ！ 旨キモオ！」





(ま、魔法が使えない……？
どうしてえ……？

このままじゃ自分の胸に……)

捕食されたクラウディアは乳房
の縮小化を試みるが魔法が発動
しない。

それは放出された魔力が次から
次へと蛇娘に吸収され、魔法発動
に至るまで出力を上げられない
せい。

クラウディアは諦めない。

だが、抵抗するほどに蛇娘を
無駄に刺激していく。

「アアアアンンツツ……!!
イックウウーッ!!」

結果、ついに絶頂まで導いてしまい
膣食道が一気に締まる。

ク
ク
ク
ク
ク

B



「ハテ？ シゲキゲキ減？
オモワズハメコロシチャツタ。
残念ムネン。」

ダンジョンにて強大な力を得てきたそれはおっぱいが
大きくなり過ぎて深層にて潜んでいるだけだった。
だが、そこに冒険者が辿り着いてしまった。
おっぱい縮小化の手段を得たそれは気の向くままに
昇っていき、超乳人間の味を知る。

厄災級モンスター「ラミアス」。
その暴虐は始まったばかりであった。

「べ、別によ。心配とかじゃねーけど。うちらより快感とった奴らだし。マジ心配とかじゃねーけどよ。」

「あー。そういう前置きはいいので。(いつも面倒くさいな、お前)

つまるところ元パーティメンバーの安否を探索ついでに確認したいんですね。いつもの延長みたいなものですから構いませんよ。」

「そ、そうか。」

「……って、別にマジで心配とかじゃないからなあ！あくまでついで。ついでだからな！」

「だからお前も無理にきばらなくていいからな。」

「……です。」



「そして、私はいつものように「ダンジョン」へと向かっていった……。」













































































